



## 東日本大震災救援ボランティア 石巻

### 石巻へのボランティア

東日本大震災のボランティアの募集に応じて五月二六日から三日まで日本共産党の石巻救援センターに行き、次のようなことをしました。

### 聞き取り

「家も車も流されてマシオンを借りている。自転車を貰ったがパンクして買い物にも行けない」等の声も。救援センターでは直ぐにパンクを修理できる人に行って貰いました。

### 救援物資の配布

津波で多くの家が流された中、辛うじて二階部分が残った家に住む被災者には電気も水道もありません。そこで、

救援物資を配布。車も自転車も流され、買い物に行けない人が沢山。二ヶ月も下着を換えられなかったというお年寄りも。

### 救援物資の仕分け

膨大な量の救援物資の段ボールを開けて、男女別、夏冬別、大人子供等々、種類毎に仕分け。これが結構きつい。

### 泥掻き

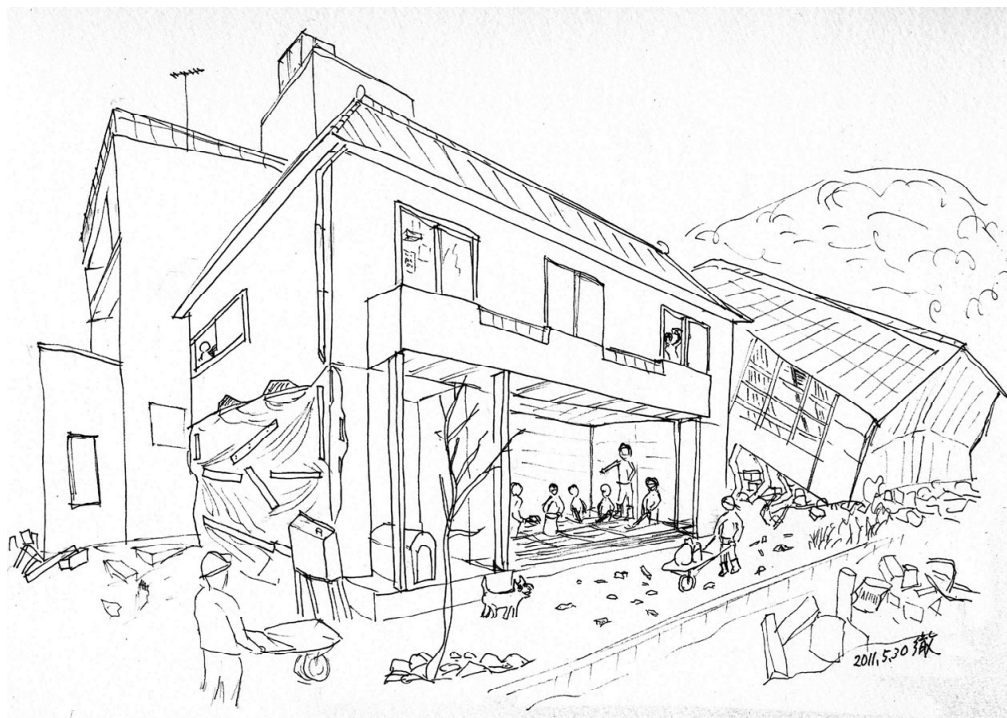
下の絵の通りです。

### 感想

被災者の深刻な事態をみんなに解って貰いたい。被災した庶民の生活を救うのが政治の役目ではないかと思いましたが。是非、ボランティアに加わりましょう。

### 二階の床上三〇センチくらいまで津波が来た家の泥掻き

この絵は旧北上川の左岸の河口に近い湊町の漁師さんの家です。二階の床上三〇センチくらいまで津波が来ました。この家の左側にあつた漁師さんのご両親の家は津波で流されました。



これは記憶を頼りに描いたものです。

漁師さんは、地震の時、沖合五〇キロで魚探を見ていたら急に十メートル位水深が変わり(津波で船が上下)津波と分かったそうです。船上でテレビを見ていて、気が気ではないのに、津波警報解除まで三日間入港できませんでした。

留守宅にいた奥さんは犬の異常な吠え声で津波と分かり、ご両親と二階に避難。

津波が運んだヘドロが床下に十センチ位溜まり、悪臭を放っていました。十人余りのボランティアでその泥掻きをしました。